



和歌二十一首



15
6673
6



歳旦

歳の初めは
春の初めは
花の初めは
鳥の初めは
魚の初めは
人の初めは

野外雑

音の初めは
鳥の初めは
魚の初めは
人の初めは

春月

春の初めは
花の初めは
鳥の初めは
魚の初めは
人の初めは

三月書

鐘の初めは
鳥の初めは
魚の初めは
人の初めは

鐘の初めは
鳥の初めは
魚の初めは
人の初めは



藏目

歳旦

言の葉より花と咲くし百草花

と繁原へ帰るまゝの春

日影を影と

野外雑

かくれしこゝに
音に立ち書あかきせう 狩念

入世の雑子家来りて續て

いづれ

春月

弘法大師の
あはれにわけて秋も思ふ御家

花の影に影に花に月影

とて在る

ゆかに中へ

容易に

三月書

鐘の音に花に影に

八尋に花ありぬるに
いづれに花ありぬるに
かよふに花ありぬるに

とて在る

卯花

引...
消...
卯花

近...
極...
高...
卯花

辰所月

絶...
辰所月

え...
卯花
辰所月

引...
卯花

あ...
卯花

く...
卯花

卯花

引...
卯花

引...
卯花

月下紅糸

月に入道も 唐北海は

月下紅糸

八月廿三日 月夜に
てふる香るるの紅糸の
ささるる

何句ふも 月夜に
ささるる

滝紅糸

影うつす 本朝の
のほろして
おぼろ

唐紅糸 唐北海は

月前菊

花おふる 花は
おぼろ

菊とる 菊は 盛るる 月夜に

曉廉

ついでに 月夜に
おぼろ

書きて 月夜に
おぼろ

和言のあやうきしつと云ふ
加字のまじりたる
月前馬

月影上 四枚
月影下 一
重とのり 一
赤紙 一

月影上 一
赤紙 一
鷹の一陳

まじりたる
加字

江月

江波に空絶くまの影は影

草間にするまの影は影

まじりたる
加字

夏月

まじりたる
加字

木は間よりうつほの影は影
まじりたる
加字

露のすくまの影は影
まじりたる
加字

まじりたる
加字

浦月

浦月もあるまの影は影

浦月もあるまの影は影

七夕 一
まじりたる
加字

清浄なる心

心十徳をばしよる心

七夕 清浄なる心
心十徳をばしよる心

毎小
今日夕の逢ふ始
精あまりのあまの心
精あまりのあまの心

七夕別

三日月 世をみる心
三日月 世をみる心

と朝の別をこころみる心
と朝の別をこころみる心

早涼映月

秋涼なる心
秋涼なる心

うらな婦人の心
うらな婦人の心

雨霧中馬

外を歩ける心
外を歩ける心

心十徳をばしよる心
心十徳をばしよる心

回心家ナリシハハハハハ

引つ珍しく小田村のつれづれは
荒れは海あけてはいい海あつた

やまをさすては影のまは

味はあつた

暮種

外に
行旅のさそひて秋のまは

山下の
心はとれぬまをうれは

冬心持

庭の草軒端のあやを流す

人目と枯るゝあはら

千鳥

りひひ

終末書あつた子鳥の

はれあつた月よあ

鷹狩

紅海書の...
...
...

はれおす月...
...
...

鷹狩

沖得場や...
...
...

ふれおほわ...
...
...

出言...
...
...

言の...
...
...

馬...
...
...

別...
...
...

通...
...
...

...
...
...

初...
...
...

...
...
...

...
...
...

田舎の山に...

引く... 山田... 荒ぶ...

寄せ... 影...

暮種

外... 行...

山... 何...

冬山岳

庭の草軒...

人月...

千鳥

夕...

ほ...

鷹狩

中...

これ...

出...

言...

別

通...

山...

初意

山...

山...



奇道述懷

分そめて同帰念をかくにやふと

誰か去るおれを待つ人の心

山白保く
お中へんと

太二十九首

寛舟



寅ノ子盡冬之日

善法如信田

平井冬之秀

拜州